

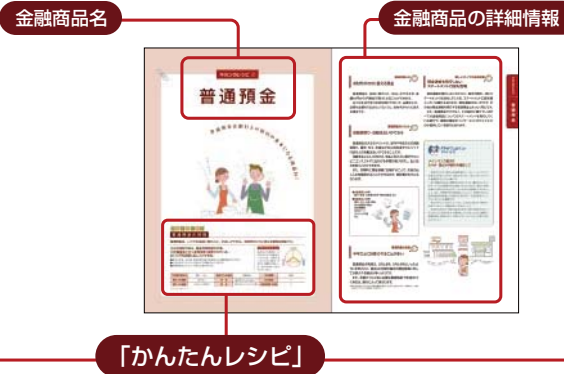
このパンフレットの見方

◎パンフレットの構成

このパンフレットでは、全体を6つに分類しています。それぞれ取り上げている内容は次のとおりです。

- 下ごしらえに…………… 人生設計に必要な金融リテラシーと金融商品の選び方
- キホンのレシピ…………… 銀行取引の基本となる安全性の高い普通預金と定期預金、総合口座
- ちょっと上をいくレシピ…………… 比較的収益性が期待できる外貨預金や投資信託、保険商品、値動きのある債券や信託商品
- レシピの基礎知識…………… 金融商品を見る際に知っておきたい金利や預金保険制度
- レシピの応用知識…………… 収益性を期待できる商品とつき合うにあたって知っておきたい長期分散投資の考え方と税金、消費者保護
- 便利な調理器具紹介…………… いろいろな取引方法とセキュリティ対策

◎「かんたんレシピ」について



主な金融商品については、最初のページに「かんたんレシピ」の欄を設けました。その金融商品の特徴や概要などが一目でわかりますし、他の金融商品ともかんたんに比較することができます。

「かんたんレシピ」の欄では、次のことについて説明しています。

- A 金融商品の仕組や特徴などの概要
 - B 「安全性」「収益性」「流動性」の3つの性格から見た金融商品の特徴
 - C 金融商品の内容や注意すべきこと、また便利な利用方法など
 - D 利用可能者、元本保証^{*1}の有無、預金保険制度^{*2}の対象か否かなど、金融商品の概要一覧
- *1) 元本保証とは、全運用期間にわたって元本額が減らないこと(元本割れしないこと)を金融機関が保証することをいいます。
*2) P35をご参照ください。

かんたんレシピ

普通預金の特徴

- A 普通預金は、いつでも自由に預け入れ、引出しができる、お財布がわりに使える便利な預金です。
 - B 元本保証がある。預金保険制度の対象。
定期預金に比べ金利は低く設定されている。
いつでも自由に出し入れできる。
 - C ●給与や年金、公社債、株式の配当金の利息などの自動受取りができる。
●公共料金やクレジット代金などの自動支払いに使える。
●定期預金などとセットで総合口座が作れる。
 - E FPからのひとこと
給与などの受取り、公共料金などの自動支払いができる、日常生活に欠かせない預金。安全性と流動性が高い一方、金利は低めに設定されています。
- | ご利用可能な方 | 個人・法人 | 適用される金利 | 変動金利 | 申込期間 | 随時 |
|---------|----------|---------|---------------------------|-----------|----|
| 預け入れ期間 | 定めなし | 利息 | 毎目算され、半年ごとに元本に組入れられることが多い | 元本保証 | ○ |
| 預け入れ金額 | 1円以上1円単位 | 税金 | 利息に対して20.315%(個人) | 預金保険制度の対象 | ○ |

E FPからのひとこと

本誌監修のファイナンシャル・プランナー吹田朝子さんによる金融商品診断。「安全性」「収益性」「流動性」の3つのポイントをレーダーチャートにしていますので、他の商品と比較する際の目安にしてみてください。

レーダーチャートの基準

- 安全性:**元本保証があり、預金保険などの対象になっている商品を、最も「安全性」が高いと評価しています。
- 収益性:**元本割れの可能性はあっても、より高いリターン(収益)を期待できる商品を、最も「収益性」が高いと評価しています。
- 流動性:**自由に換金が可能で、ATMなど銀行の窓口以外でも引出すことができ、給与などの自動受取りや公共料金やクレジット代金などの自動支払いなどの決済機能がある商品を、最も「流動性」が高いと評価しています。



吹田朝子 (すいたともこ)

日本FP協会CFP®認定者。1級ファイナンシャルプランニング技能士。一般社団法人円流塾代表理事。TV・書籍・講演・個人相談で活躍中。





より人生を充実させるために 大切な金融リテラシー

料理の下ごしらえと同様、私達は充実した人生に向けて様々な準備をしています。特に大事なことほど、お金のことが気になるのではないのでしょうか。その一方で、今まで、お金の話題を避けてしまう傾向もよく見られてきました。しかし、これからの時代、私達がより豊かに生活していくには、お金についてしっかりとした知識を持ち、お金を上手に管理し、目的に合わせてプランを立てて、様々な金融商品とつき合っていくための「**金融リテラシー**」がとても大切になってきています。

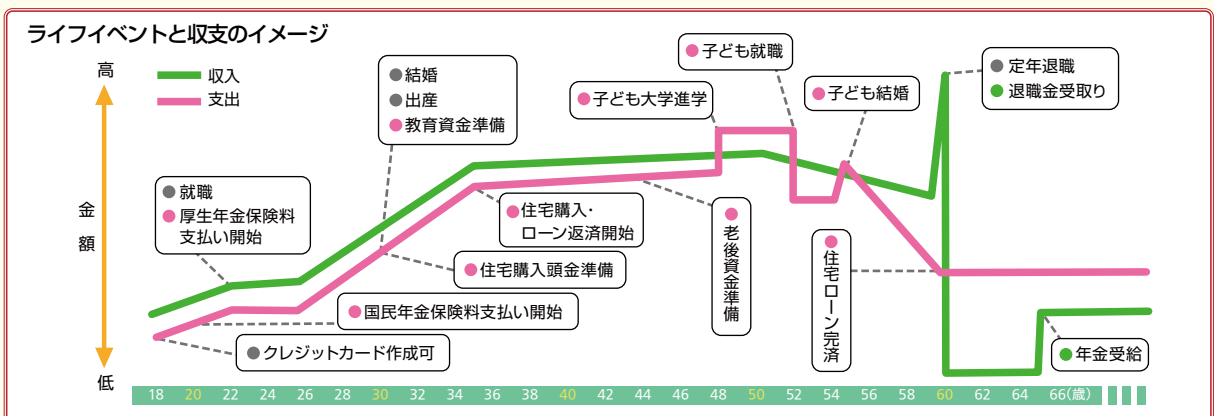
ライフプラン実現に必要な生活スキル「金融リテラシー」

私達は人生の様々なタイミングで、金融機関と付き合い、貯蓄や資産運用、保障など様々な金融商品を選ぶ機会に遭遇しています。例えば、就職、結婚、住宅購入、出産、子どもの進学、老後など様々なライフイベントに対しては大きなお金が動くこともあり、お金についての不安や悩みも多く聞かれます。

こうしたライフイベントを含め、ライフプラン(人生設計)を立てて、着実に実現しようと思えば思うほど、「いつまでにいくら必要になるか?」「今からどのように準備したらいいのか?」「準備するならどの金融商品がよいか?」「金融商品を選んだ後も、気をつける

ことはないだろうか?」など、お金の悩みはつきないでしょう。

そこで役に立つのが「**金融リテラシー**」です。「**金融リテラシー**」とは、**金融に関する知識や情報を正しく理解して、私達が主体的に判断して選択・行動できるための能力および生活スキル**のことです。これらを身につけることで、私達はライフプランの実現に必要なお金の管理や資金準備プラン、そして目的に合った金融商品選びと途中の見直しなどのメンテナンスが自らできるようになり、余計な不安に悩まされることが減ってくるといえます。



金融リテラシーで変わる毎日の視点

金融リテラシーが身についてくると、普段の私たちの生活の視点も変わってくるでしょう。それは、日々のニュースなどで得られる情報の見方についても、自分自身のお金と結びつけてその影響を考える癖がついてくるからです。例えば、社会の賃金や物価水準などを意識することで、毎月の収入や支出、資産管理にも反映させて、積立目標をより身の丈に合わせて設定することも可能でしょう。また、社会経済の動向から、長期的な視野で自分や家族のライフプラン上の必要資金を再認識することも金融リテラシーのなせる技です。

更に、その必要資金をしっかりと準備していくために、社会の経済や金融環境などを理解し、その環境変化と金融商品との関係を知って、金融商品に関する意思決定や判断をできるようにしていくことが大切です。金利環境などの変化を見据えて、目標額に到達できるために、金融商品や金額などをどう見直していけばよいかなど、金融リテラシーを最大限活用したいですね。

私達のお金と金融商品の関係

私たちの人生に大切なお金はよく社会生活における血液に例えられます。

例えば、必要なものを購入する際に私達個人から企業へ、住宅ローンなどを借りるときは金融機関から個人へ、税金を納めるときなどは個人・企業から国・地方公共団体へと、まるで体内を血液が循環するようにお金は移動し、経済社会を成り立たせています。

また、私達はお金を保有・管理するために、銀行で口座を持ち、金融商品を選んでいますが、銀行は、預かったお金を一定のルールで管理しながら、社会で効果的に活用すべく、金融商品を揃えているのです。

ここで注意したいのは、それらの金融商品に特徴があり、安全・安定的な運用対象のものから、比較的値動きのある運用対象を含むものまで様々なこと。私達は、その特徴を知って、自分の使い道に合うものを選ぶことがとても重要になってきます。





イベントに合わせて
献立を考えよう!

ニーズに合った金融商品の選び方

料理をする際、家族の楽しみなどの
目的や家族の体調に合わせてメニューを考えるように、
お金も金融商品の性格を知って、
「何のために準備するか」という目的に合わせて
使い分けて選ぶことが大事です。

金融商品の性格 (安全性・流動性・収益性)を知ろう

金融商品には、「安全性」「流動性」「収益性」という大きく3つの性格があります。

- 「安全性」とは
元本（預けたお金）が保証される度合いを指します。金融機関による元本保証があるか、預金保険制度（P35 参照）の対象になっているか、預けた金融機関などの経営状態の影響を受けるかといったことが判断基準にあげられます。為替など市場の影響を受けることは「安全性」を下げる要因になります。
- 「流動性」とは
換金のしやすさのことです。中途解約ができない、換金できない期間がある、換金に手数料がかかる、換金するのに事前の連絡が必要といったことが「流動性」を下げる要因になります。
- 「収益性」とは
より高い収益を期待できる度合いを指します。一般に高い収益が期待できる金融商品は、流動きがあってリスク（不確定性）も伴うことから、期待に反して損失が生じる可能性もあります。

この3つの性格は、それぞれの金融商品によって異なりますが、一般的に「安全性と収益性の両方が高い」金融商品や「流動性と収益性の両方が高い」金融商品はありません。

しかし、「安全性と流動性の両方が高い」金融商品は普通預金などがあります。



目的に合った金融商品選びの段取り

金融商品の性格を心得たうえで、目的に合わせて使い分ける際に、次のように考えるとよいです。

【1】「何年後にこんなことを実現したい」という

目的達成に向けて準備

(例：教育資金・住宅購入資金など
⇒「キホンのレシピ」で、メインのおかず)

【2】急な事態でも慌てないような予備費や生活費の確保

(例：冠婚葬祭や震災などの緊急予備資金など
⇒「キホンのレシピ」で、つけ合わせ)

【3】余裕に応じて長い目で温めていきたい!という

余裕資金の活用

(例：引退時のご褒美的な旅行など
⇒「ちょっと上をいくレシピ」で、スパイス的に)

それぞれ目的や使い方に応じて、「安全性」、「流動性」、「収益性」のどれを一番重視するのか、そのバランスも変わってきます。

【1】のように、教育資金や住宅購入資金など、着実に実現したい目的には、元本が減らない「安全性」が重要です。また、使う時期がまだ先の場合は、すぐに換金しやすい「流動性」を求めなくてもいいかもしれません。

【2】のように普段から確保しておきたい日常的なお金は、「安全性」と「流動性」の両方が比較的高い預金に向いているでしょう。

【3】のように、すぐに使う目的もない余裕資金は、「収益性」をある程度求めてもいいかもしれません。ただし、元本割れなどのリスクに対して許容できる範囲で考えることが大切です。

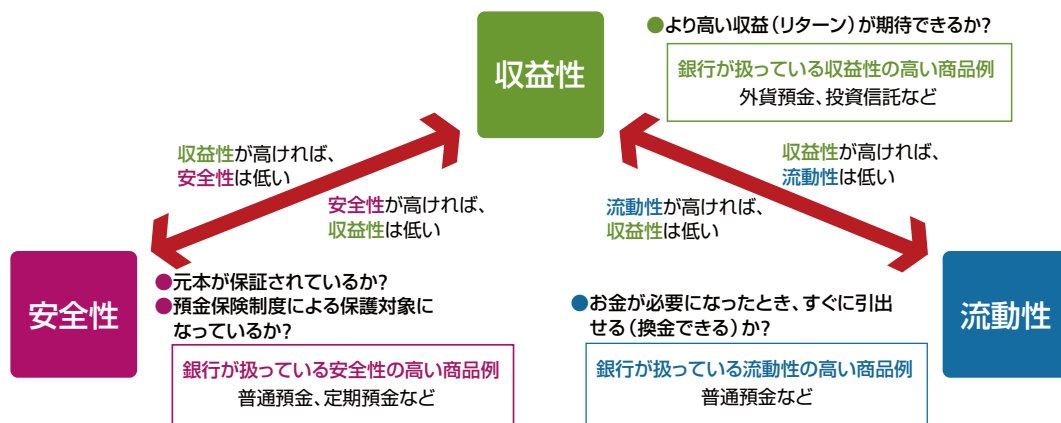
商品選びから銀行の利用しやすさも考慮した絞り込みへ

これらの目的に適した商品の品揃えは、各銀行によっても様々です。

「安全性」の高い預金でも複数の商品を揃えているところがありますし、リスクはあるが「収益性」が高い商品を豊富に取り揃えている銀行もあります。

また、申し込み手続きも、店頭窓口のみならず、インターネットなどが可能でコールセンターが充実しているところなどがあり、利用のしやすさなども考慮して絞り込んでいくのがよいでしょう。

「安全性」「収益性」「流動性」の関係



安全性を見るチェックポイント

- 金融商品自体の価格や価値が相場の変動に伴って変動しないか
- 株式や債券を発行する企業などの経営が健全か
- 金融商品を取扱っている金融機関の経営は健全か
- 預金保険制度の保護対象となっているか

収益性を見るチェックポイント

- 高い利回りが期待できるか
- 値上がり益が期待できるか
- 為替差益が期待できるか
- 手数料が高くないか
- 値動きはどれくらいか

流動性を見るチェックポイント

- あらかじめ期限(満期)が定められていないか
- 引出せない期間(据置期間)が定められていないか
- 満期があっても中途解約ができるか
- 中途解約のときに解約手数料がかからないか
- すみやかに換金できるか
- 売りたいときにすぐに買い手がみつかるか

※なお、各金融商品の特徴(安全性・流動性・収益性)はP45にもチャート一覧を掲載していますので、ご参考ください。